

Card Seek ブロマガ(Vol.2)

2012 年 1 月 31 日 号

「クラウド・テレフォン」

小河 俊 紀

自宅とは別に顧問事務所を開いてから、思
いがけない課題が発生してきた。

今までは、ひとつのPCとメールアドレス
さえあれば仕事できたのだが、自宅と事務
所の違うPC2台で並行処理を進めるように
なったら、どれが最新のデータなのか、判別
しづらいケースが増えてきたからだ。

もちろん、メモリーカードでデータを随時
更新・共有しているものの、いつの間にか微
妙に内容がずれてくる。

仮想上のサーバーにデータを統一
保管する「クラウド型」にそろそろ
移行すべき時期なのかもしれない。



同時に、事務所の代表固定電話も設置すべ
きか迷っている。とりあえず、ケータイ電話
で用が足りているからだ。

20×20

こんなことを書くと通信端末メーカーから	
怒られそうだが、なぜ、固定電話とケータイ	
電話端末を、公私それぞれ重複して4台も持	
つ必要があるのだろうか？	
なぜなら、通信という世界は速報性・利便	
性だけが価値だから、1台の電話機だけで何	
種類の電話番号も使いこなせるクラウド型に	
なってもおかしくない。	
たとえば、私の本業であるクレ	
ジットカードビジネスは、ネット	
通販の世界で既にクラウド型に突	
入している。どのPCであろうが、決済には、	
カード番号と有効期限しか必要ない。用途に	
よって数種類の番号を使い分けることもでき	
る。(安全面で、若干怖いが)。	
国内には、現在(個人、法人ふくめ)2億	
種類の電話番号と、20億台もの電話端末が	
流通しているといわれる。	
しかも、日本の通信環境はハードとソフト	
がゴチャゴチャとしていて、本当に分かりづ	

20×20

らい。通信方式、料金プランも雑多な上、ケータイ電話と固定電話双方の契約が必要で、基本料も二重だ。不経済極まりない。

ケータイ電話端末も多種多様で、高価な割に外出時に持ち忘れると何の役にも立たない。

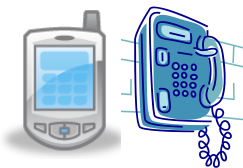
ただ、ケータイ電話は、住所や通信会社が変わっても使用者の電話番号自体は不変（MNP）になり、固有性・連続性がある。

固定電話も、それなりの安定性に優れているから、MNPで固有性・連続性を強められたら、用途に応じてメリットが増す。

電話端末はただのツールに過ぎない。公衆電話含め、どこでも端末経由でもアクセス者の契約電話番号と暗証番号（もしくはSIMカードのような媒体）の認識によって、送信、



および履歴確認がキャッシュレスでできないものだろうか。



クラウド型PCの傾向を強めるスマートフォンがさらに進化すると、

私の夢も現実化しそうな気がしてならない。